

令和元年度 第1回八雲町総合開発委員会議事録（要旨）

【開催日時・場所】

令和元年12月20日（金）午後1時30分～午後3時45分

八雲町役場第1・2集会室

【出席者】

委員：秋松等、小川勝士、鎌田和弘、木村滋、刀禰清貴、阿部政邦、梶田和夫、大野尚司、酒井正俊、小笠原英毅、大野博子、吉田久子、小出政彦、佐藤馨、竹浜俊一

町：岩村町長、萬谷副町長、田中教育長、川崎財務課長、野口地域振興課長、吉田産業課長、戸田保健福祉課長、武田高齢者福祉係長、竹内庶務課長、吉田交通防災主幹、吉田庶務交通係長、竹内政策推進課長、上野政策推進課長補佐、多田企画係長

傍聴者：なし

【要旨】

○第2期八雲町総合計画の評価（平成30年度実施分）について説明し、質疑を受けた。

○第2期八雲町まちひとしごと総合戦略素案について説明し、質疑を受けた。

○八雲町新庁舎等建設に係る基本的な考え方について説明し、質疑を受けた。

○当面する町の主要施策・事業について説明し、質疑を受けた。

【内容】

1. 開会

2. 辞令交付

3. 町長挨拶

4. 会長挨拶

5. 報告事項

（1）第2期八雲町総合計画の評価（平成30年度実施分）について

資料1-1、資料1-2について政策推進課企画係長より説明。

委員：研修牧場については当初、上八雲の農家5戸が参加と言われていたが、この頃になって3戸になったと聞いている。原因を伺いたい。

町：先週打合せした時も、当初の予定どおり農家3戸ということで進んでいる。

委員：上八雲でない農家が参加することになって、1戸の農家は承知できないということで減ったという噂もあるが、そういうことはないか。

町：そういうことはない。当初の予定通り進んでいる。

委員：1年目の計画で目標値に達しているものもあるが、令和4年度の目標値にほぼ近いものは、目標を上げるということはないか。

町：基本的には目標は上げないこととして考えている。

- 委員： ほぼほぼ達成しているものもあるが、さらに上を見ても良いのかなとも思うが。
- 町： 総合計画の前期5年ということで目標設定をしているので、5年後に見直しをかけようかと考えている。
- 委員： 見通しが甘かったと思われるかなと。
- 会長： それだけ一生懸命頑張ったということもあるかと思う。
- 委員： 分かった。
- 委員： インフルエンザ予防接種、脳ドックの受診、高齢者の肺炎球菌ワクチン接種など最大で74歳までとなっているが、人生100年といわれている。上限年齢の決め方、考え方はどういう形で進められているか。
- 町： 高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種は、国の方で一度に65歳以上の人に接種するとワクチンの量が足りなくなるなどあるので、5歳刻みで100歳まで、5年間かけて接種することになっている。八雲町では全員に個別通知をして5年間実施したが、接種率が高くなかったため延長して取り組むこととした。5歳刻みで5年に1回回ってくる形だが、何歳までということではない。インフルエンザの予防接種は65歳以上を対象としている。75歳を超えた方は予算上では後期高齢者会計で予算措置をしている。一般会計では74歳までだが、75歳以上も助成対象としている。
- 委員： 肺炎球菌ワクチンは平成26年10月1日から平成30年3月31日までの時限措置でワクチンを接種するというようになって、新たな年度を迎えて取り組みをしているが、過去5年間の経過については100歳ということだが、今年とか来年とか、65歳から始まって5歳刻みで100歳までのワクチン接種をするという方向で取り組むということなのか、75歳で終了するのかを改めて聞きたい。また、脳ドックが70歳で受診できないという現状になっている。何度も言うが、高齢者が健康で豊かな生活を送るというためにはやはり予防措置を取ることが必要だと思う。現状で、70歳以上の脳ドック受診への助成が検討されているか聞きたい。
- 町： 肺炎球菌ワクチンについては、65歳から100歳まで5歳刻みの方を対象として、今2巡目だが、今回も100歳までを対象としている。脳ドックについては、対象年齢を70歳までとし、40歳から5歳刻みで70歳までとしている。対象年齢については、事業の効果を検討した中で40歳から70歳までとしている。
- 委員： 要望だが、脳ドックはせめて80歳くらいまで引き上げてはどうか。
- 会長： 脳ドックについては要望ということなので、町として検討願う。
- 委員： 資料1-2の4ページにある「防災体制の強化」で、災害時要援護者個別支援計画の策定町内会は平成28年度で5町内となっている。平成24年3月に支援プランを作りましたということで、町が125町内会に提案をしてそこから取り組みが始まったが、いまだ取り組みが進んでいない。昨今、台風15号や19号、さらには大雨等を鑑みたときに、避難できる人は問題ないが、人の手を借りなければ避難できない方が各町内会に何名かずついるということ考えたとき、この取組が急務ではないかと思う。進捗していない状況は何に起因するかをお聞かせ願いたい。
- 町： 阿部委員おっしゃる通り、平成24年に策定して取組を促しながらスタートしたが、8

年経過しているが名簿の更新もなかなか取り組みが進んでいない状況。今年度も遅れたが、覚書締結町内会に新しい名簿を配布したところ。出前説明会のメニューに入れていたが、町からも積極的に働きかけをして進めていきたい。

委員： 資料1-1の6ページにある「営農飲雑用水施設整備」についてはどこまで進んでいるか。昨年、地域に説明があり、その後も随時説明会をやるということだったが、なしのつづてで地域の人たちが随分いら立っている。当初3年と言っていたが、5年に延び、更に伸びている状況。進捗状況を教えて欲しい。

町： 国の補助制度を活用して事業を進めているが、現在のところ予算が順調に付いていないということもあり、令和3年度の完成ということで道から連絡を受けている。ただ、予算の付き方によっては更に伸びるということもあり得ると思っている。

(2) 第2期八雲町まちひとしごと総合戦略素案について

資料2について企画係長より説明。

委員： 漁業の場合、機械化が進んでいるが、依然として人の手が無ければなかなか成り立たない状況。雇用している人たちの高齢化が進んでおり、働き手がいないわけで漁業の継続が非常に厳しくなってくる。数年前から外国人の技能実習生を受け入れており、漁業だけではなく他の所もあると思うが、個人が管理団体を作って取り組んでいるものの、管理運営が色々な面で非常に煩雑。入管などの手続きも絡んでくる。そうした中で、特定産業分野ということで介護・建設・自動車・宿泊・農業・漁業・飲食店など14分野の特定技能資格制度がスタートしている。町が主導して全分野にまたがる管理団体を設置できないか。

町： 町としても必要性を認識。北海道の相談窓口が今年からスタートしたところ。町としては商工観光労政課を中心になり、国・道の情報を得ながら、産業団体と話をしながら、町が主導的に進めていこうという段階。協力願いたい。

委員： 八雲町の出生率が1.53から1.21に激減していて、資料では「内容的には分からない」としているが、こじつけでも何かの理由が把握できていればお聞かせ願いたい。

町： 平成27年までは出生数は120人程度で推移していたが、平成28年は80人台まで激減している。女性の数も減少している状況で、それらの絡みで落ちたのかなと思うが、我々としてもそれくらいしか把握できていない状況。

委員： 50年後、この町がどんな形態になっているかということが、この計画を頼んだコンサルタントから話が出ているのではないかと思うが、もし分かれば教えてほしい。

町： この計画は、人口推計は社人研から持ってきているが、これをベースに内閣府が出した計算式があり、それによって自前で作った計画。コンサル等かけていない状況で作っているため、コンサルからの意見というのは入っていない計画となっている。ただ、9千人台の町と言ったときに、町の存続ということを考えると不安な状況になると思う。そうならないように、少しでも減少幅を抑えていくということで、ここに記載している施策と、今後も施策を追加していきながら進めていこうと考えている。

委員： 人口ビジョンについて、来年8月に国立病院が廃止されると患者家族も入れ1000人後の人口が減ってしまう。独自試算をしているということだが、どう検討がなされてい

るのかお聞きしたい。

町：この人口推計については、内閣府が出した計算式に基づいて、八雲町の2015年の国勢調査の数値と社人研が出しているデータをもとに人口推計をしているが、性別・年齢などの細かい数値を基に計算をするような方法をとっている。人口推計をするにあたって来年8月の国立病院の移転は影響が大きいと考え、これをどうにか人口推計に反映できないか模索はしたが、1000人の性別・年齢まで掴むことが難しかった。申し訳ないが国立病院移転の影響は今回の人口推計には反映していないので、ご理解いただきたい。

委員：なかなか難しいことを理解した上で発言しているわけだが、八雲でも1・2を争う働く場を持っている国立病院がなくなるということを入れないで人口ビジョンを論議したって意味無いのではないか。

町：国立病院移転による転出者の内訳が正確に分からない。今後、ほかにも人口が減る要因がありえるが、それらも見込むことができないことも事実。そういった特殊要因は加味しない計算となっているので、ご理解いただきたい。

委員：難しいことは事実としても、時間をかけて論議しても仕方がないと思う。行政側が色々苦労していることは理解するが、3年先、5年先のことでなく、あと1年未満で廃止されることが入っていない人口ビジョンを論議しても意味がないということ。

会長：竹浜委員は意味が無いということだが、他の委員の意見もいただきたい。

委員：国立病院の移転廃止で確かに人口が減るという直面した問題はあるが、我々も色々と事業は推計に基づいた対策という格好になっている。人口推計は機械的に弾いた数値であり、現実問題として出生率も低いので、将来を見通したときに減少していく。これにどう歯止めをかけるかという計画だと理解しているので、個人的にはこの計画で問題ないと思う。

委員：国立病院の移転で人口がどれだけ減るかは、通常入院患者の3倍と言われているようだが、実際には住民票を登録していない方も本店においては結構いる。それを正確に把握するのは無理だと思う。ベースにそれほど影響しないのであれば、今の議論を続けることが全く無意味だとは思わない。更にいうと、政策の方の議論をもっとすべき。若い人をとにかく増やしていかなければ八雲町の将来の人口は維持できないので、若い人が就ける仕事を創出していくことにもっと主眼を置くべきと思う。

町：若い人が就ける仕事というのはやはり大事だと思う。若い人を呼び込む仕事もそうですが、若い人のバックアップ、子育ての充実などを同時並行で取り組まなければならない。若い人の仕事がどんなものが良いのかということを経営に反映させていかなければならないと思う。

委員：八雲町民が人口推計を見たら、普通は「八雲町に鮭のように帰ってきてほしい」と思うのではないかなと思う。極端かもしれないが、高校生をこういう場に呼ぶとか、生産性の高い世代の方にもっと現実を知ってもらうということは間違いなく必要なことだと思う。また、若い人という意味ではSNSをどのくらい町として活用しているか。八雲町のツイッターは活用しているとは言えない状況。もっと伝えていかないとこの計画は絵に描いた餅になってしまう。やはり若い人にどれだけ八雲町やばいよ、なくなるよ、

と言えるかということなので、そういう施策を打ってほしい。

町： 高校生との繋がりについては、町長もまちづくりに関して高校生と意見交換会を開催している。また、八雲高校が道教委の指定を受け「オープンプロジェクト」というものをしていて、自分たちのまちについて生徒なりに考え、それを発表する取り組みもやっている。こういった取り組みを続け、機運を大きくして行って皆で八雲を盛り上げようという雰囲気を作っていきたいと考えている。

委員： 大学で去年から八雲町にインターンをやっている。去年来た3年生のうち1人が八雲町で働きたいと言っている。つまり一次産業で人を呼べるということであり、外から入ってくる魅力がまだ八雲町にはあるので、是非、そういう事業を継続してしてほしい。

会長： 人口推計について、他の委員さんも議論することには問題ないという意見もあった。この計画に対する要望等も出されている。総合開発委員会の意見としては、意見や要望を踏まえて、この方向で計画策定に向けて進めて良いか。

（「はい」との発言多数あり。）

（3）八雲町新庁舎等建設に係る基本的な考え方について

資料3について総務課庶務交通係長より説明。

委員： 建替えには反対しないが、公民館やシルバープラザなどを集約する理由は何か。また、災害のとき海拔7mまで浸水してくるということになると、線路から向こうの街は2mくらいの浸水になってしまうわけで、その辺が今後対策されないで庁舎だけ移すということなのか聞きたい。また、町民からは消防署自体をなぜ海の近くに建てたのかという意見が聞かれる。

町： アンケートでは1箇所 で用件が済まないという意見が結構多かった。具体的に言えば何かを申請するときに所得証明などを役場に取りに来てから、他の窓口に行かないといけないという状況になっているので、それらが1箇所 で済めばサービスが向上するという事。また、維持管理費を削減できることもあり複合化する方針としている。

町： 役場の海拔が7mで6mまで浸水すると想定されているが、これは国と北海道が今年7月に1000年に一度の洪水に対して浸水地域の見直しをしたところ、従来よりも浸水地域が拡大し、現在の役場庁舎でも7mの海拔に対して6mの浸水でギリギリのところまで来てしまうということ。国立病院まで行くと海拔は16mほどあるので防災拠点機能の面だけで言うと、津波や洪水の浸水区域から役場庁舎を移すというところに利点や意義を見出している。消防庁舎については、東日本大震災によって大きな津波に対する脅威が現れたが、消防庁舎は東日本大震災の前に着工していた。その部分のご理解いただけたと思う。また、庁舎集約化の補足として、保健福祉課に介護保険、本庁舎に国民健康保険や後期高齢者医療保険があり、シルバープラザと本庁舎を行き来しなければならなかったり、障がい児の関係で役場やシルバープラザ、公民館を行き来しなければならぬという不便な点を解消することもあり集約化が必要と考えている。

委員： 理解できないわけでないが、例えばシルバープラザでいうと福祉村と位置付けているし、ここは海拔7mということでも6mだとギリギリだと。その場合、東町とか元町だとか富士見町の対策は何かしらするのか、しないのかを聞きたい。遊楽部川に中州がある

が、あそこも 100 年に 1 回の水害ということで伐採を部分的にやった。水害対策が必要であれば私は役場庁舎だけではなく、どういことをやっていくかということを町民に知らせていく必要があるのかと。

町：今は役場庁舎の考え方に関する議論の場であるので、八雲町全体の災害対策に関しては別な時にお願いできないか。

委員：新聞では既に国立病院跡地に決まったような書き方をしているから、私は発言している。

町：確かに防災にはいろいろな想定はあるが、災害担当から話があった通り、災害の想定は年々厳しくなるということもある。更に庁舎については、災害が起きた後の避難や災害対応ということもあるので、今想定できる災害の少ない場所に建て替えることが一番良いだろうと思っている。竹浜委員の意見も十分に尊重しながら検討していくのでご理解いただきたい。

(4) 当面する町の主要施策・事業について

資料 4 について産業課長より、資料 5 について保健福祉課高齢者福祉係長より、資料 6 について総務課庶務交通係長より、それぞれ説明。

委員：福祉タクシーの値上げは否定するものではないが、例えば市街地の人も上の湯の人も一律 1 万円という支給より、距離で金額が変わるということがベターではないかと思う。ただ、距離を調べるということは事務的に複雑になると思うが、本来はそういう支給が正しいと思う。等しくというのは極めて聞こえは良いが実情と乖離があるのではないかとということで、今後検討していただきたい。

6. その他

委員：今年 6 月 6 日に花浦の海岸に行っていたら、1 m 以上のマグロのような大きい魚が牙をむいて砂浜に打ち寄っていた。危険なので水産課に伝えたが「聞いていない」ということだった。その後どうしたかなと心配している。対応が足りないと思うが町長いかがか。

町：水産課に話を聞いて、佐藤委員にお返ししたい。

委員：お願いしたい。

委員：2015 年に水防法が改正され 1000 年に 1 度の水害に対してハザードマップを作成するよう指導されている。八雲町ではまだハザードマップができていないが、議会ではタイムラインを策定するという事になっている。津波の避難場所について、熊石を除いて 15 か所避難場所を指定しているが、15 か所のうち 10 か所が屋外。夏季であれば軽装で逃げて問題ないかもしれないが、冬季であれば軽装で避難し続けるということが、人体人命に対する影響があるのではないかと。今ハザードマップを作るということから言っても、厳冬期に屋外の避難というのは基本的にあり得ない話であり、是非とも考えていただきたい。併せて、避難所については、避難所で生活した女性から上がっている声では、着替える場所がないとか、男女別のトイレになっていないとか、授乳する場所がないと

か、洗濯した下着を干す場所がないとか、女性の心理を無視したような形になっている。答えは求めないが、そういうことも加味して、屋根付きの避難場所を用意するとか、プライバシーを確保できる避難所にするということを、是非考えていただきたい。

7. 閉会